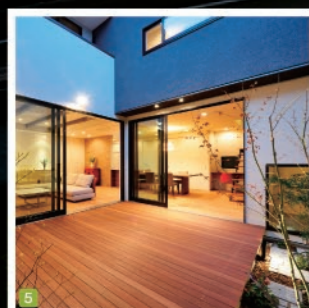


天気の良い日は、中庭にテーブルをセットして、高空や星空を眺めつつ食事を味わう。そんな時間が暮らしにゆとりをもたらしてくれる。1 中庭からの光がやんわりと差し込む、落ち着いた色調のリビング。2 リビングとダイニングキッチン、2階の各部屋は、中庭を通じてゆるやかに結ばれている。3 モダンなペーージュカラーのタイルを敷いた中庭は、落ち着いたなかにもスタイリッシュな印象を与えてくれる。4 中庭に面したガラス戸を開け放つと、リビングは広々とした開放的な空間に。5 植栽にこだわって、季節の移ろいを愉しむのも一興。

光と風を誘う中庭のある家で、
寛ぎに満ちた日々を過ごす。



陽光と涼やかな風を家のなかへと誘う中庭は、屋外でありながら邸内でもある空間。そんな中庭を囲んで、建物を配置する住まいなら、街中の立地で隣家が近かったり、人通りの多い道に面していても、外からの視線を遮ることができ、カーテンを閉めることなくプライバシーを守られる。たとえば、中庭全面をウッドデッキにしてセカンドリビングとして活用したり、植栽に趣向を凝らして緑や花を楽しんだり、土の部分を残してガーデニングに勤しんだり…。キッチンやリビングにいても目が届くので、子どもや孫の遊び場として重宝している、という人も少なくない。すでに、「中庭のある暮らし」を謳歌している人たちからは、「中庭とそれに面したリビングやダイニング・キッチンのつながりが、実際以上に広々とした印象を与えてくれる」という喜びの声も、数多く寄せられているとか。さらに、屋根がない中庭は建ぺい率の計算に含まれないため、敷地を一杯まで使えるという利点もある。

「たとえ入居後に新たな建物が隣接して建てられたとしても、採光やプライバシーを確保できます。中庭のある家は、周囲の環境が変

わつても、その影響を受けることのない住まいなんです」。そう話すのは、父が一九六一年に創業した工務店を引き継ぎ、一九九七年に「コムハウジング」を立ち上げた西村暢啓さん。その家づくりの根底には、「住宅はまず『住む人ありき』、住む人が我慢して暮らすのではなく『住む人に家を合わせる』べき」という信念が横たわる。「理想はこんな家だけできっと無理、とあきらめていた家を、実現することこそ私たちの仕事です」。工務店として長年積み重ねてきた経験と実績に培われた確かな技術で、多くの人の理想をかなえている。また、「設計とは住宅を建てる会社の当然のサービスと考え、設計料はいただきません」とも。設計・施工・管理を一貫する工務店として、高い品質と責任ある家づくりを徹底しているのだ。